

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月8日

上場会社名 三菱レイヨン株式会社

上場取引所 東大

コード番号 3404 URL <http://www.mrc.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 社長執行役員

(氏名) 鎌原 正直

問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR室長

(氏名) 指山 正敏

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

TEL 03-5495-3100

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|---------|------|-------|-------|--------|---|---------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 22年3月期第3四半期 | 257,528 | △8.6 | 1,871 | 767.7 | △8,868 | — | △11,957 | — |
| 21年3月期第3四半期 | 281,834 | — | 215 | — | △894 | — | △22,224 | — |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 22年3月期第3四半期 | △20.90 | — |
| 21年3月期第3四半期 | △38.83 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|---------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 22年3月期第3四半期 | 569,734 | 156,487 | 24.2 | 240.69 |
| 21年3月期 | 408,933 | 160,995 | 36.1 | 258.26 |

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 137,718百万円 21年3月期 147,790百万円

2. 配当の状況

| | 1株当たり配当金 | | | | |
|------------|----------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 21年3月期 | — | 3.00 | — | 1.00 | 4.00 |
| 22年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 22年3月期(予想) | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(％表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|---|--------|---|---------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 370,000 | 7.2 | 4,600 | — | △7,000 | — | △11,000 | — | △19.22 |

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 14社 (社名 Lucite International Group Holdings Limited 他13社) 除外 1社 (社名 寧波麗陽化織有限公司)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 599,997,820株 21年3月期 599,997,820株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 27,808,152株 21年3月期 27,745,251株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 572,234,345株 21年3月期第3四半期 572,346,145株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、業績予想数値には、退職給付会計における数理計算上の差異の平成20年度発生額の償却費として通期約49億円が、営業費用として含まれています。

なお、上記の業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の海外経済は、各国の金融・財政政策の効果により最悪期を脱し、中国を中心とする新興国に牽引される形で回復の動きが見え始めました。米国や欧州では、雇用環境がまだ低迷を脱しておらず、個人消費などの最終需要の回復ペースは緩やかなものとなりました。アジアでは、中国を中心とした大規模な経済対策に支えられて内需が拡大し、不振が続いていた輸出も徐々に改善の動きが見え始めました。日本経済においては、アジア向けを中心に輸出が回復を続け、経済対策の効果により個人消費に一部持ち直しが認められるものの、雇用環境は依然として厳しく、景気は回復傾向を辿りつつも引き続き低い水準にとどまりました。

このような経営環境の中で、当社グループは、昨年5月に世界最大手のMMAメーカーである英国ルーサイト社の買収手続きを完了し、MMA系事業におけるグローバルNo. 1企業グループとしての大きな一歩を踏み出すとともに、アクリル繊維事業を中心とした課題事業の構造改革を進めてきました。また、昨年8月に平成20年度からスタートした第6次中期経営計画を見直し、当社グループのありたい姿「New Design MRC」を策定し、「高収益型、成長型三菱レイヨングループ」の実現に向けた具体的な施策に取り組みました。さらに、昨年11月には三菱ケミカルホールディングスグループとの経営統合に合意し、同グループの事業基盤や経営資源をフルに活用することにより、「世界市場でトップの事業群を構築する」という基本目標の実現を加速します。

当第3四半期連結累計期間の業績については、昨年度後半から急速に減退した需要は回復を続けているものの、世界的な景気後退以前の水準には戻らず、さらに、急激な為替変動による多額の為替差損や在外子会社における固定資産減損損失などの影響を大きく受けました。その結果、売上高は2,575億28百万円(前年同期比8.6%減)、営業利益は18億71百万円(前年同期比767.7%増)、経常損失は88億68百万円(前年同期は8億94百万円の経常損失)、四半期純損失は119億57百万円(前年同期は222億24百万円の四半期純損失)となりました。

なお、平成17年度より退職給付会計における数理計算上の差異の処理方法を、発生の翌年度に営業費用として一括償却する方法に変更しており、数理計算上の差異償却額(前第3四半期連結累計期間は44億62百万円の損、当第3四半期連結累計期間は37億29百万円の損)を除いた当第3四半期連結累計期間の営業利益は56億1百万円(前年同期比19.7%増)、経常損失は51億38百万円(前年同期は35億67百万円の経常利益)となります。

事業の種類別セグメントの概況は次のとおりです。

化成品・樹脂事業

MMAモノマーは、国内では透明樹脂用途を中心に需要低迷が続き、米国では回復の兆しが見えない厳しい状況でしたが、中国を中心としたアジアでの好調な需要が全体を支えました。アクリル樹脂成形材料は、車両用途が回復基調にあり、アクリル樹脂板は、導光板用途でLEDテレビ向けの需要が拡大し、販売量が回復しました。コーティング材料は、船舶塗料用途は引き続き堅調で、主力の自動車塗料用途も中国を中心に需要は回復基調で推移しました。

なお、第2四半期連結累計期間から、昨年5月に連結子会社となったルーサイト社の株式取得日以降の経営成績が反映されています。

アクリル繊維・AN及び誘導品事業

アクリル短繊維は、世界的な需要減退の傾向は変わらないものの、特化素材を中心に中国向け輸出が回復するとともに、中国での原綿生産の撤退、日本での原綿生産能力の大幅縮小等の抜本的な構造改革施策の効果もあり、収益の悪化には歯止めがかかっています。

アクリロニトリル(AN)は、中国を中心としたアジアでの需要が回復し、製品価格も上昇基調にありますが、依然として低水準であり、収益は厳しい状況が続きました。

炭素繊維・複合材料事業

炭素繊維・複合材料は、長期的には炭素繊維市場全体の成長基調に変化はないものの、短期的には各社の生産能力増強が進む中での世界的な景気後退や航空機分野での需要減退等の影響を受け、競争環境は厳しさを増しています。急速に落ち込んだ需要は回復の兆しが見え始めているものの力強さに欠け、価格も弱含みに推移したことにより、収益は低迷を続けました。

なお、航空機用途の先端複合材料の開発と安定供給を目的として、航空機用複合材料メーカーである米国サイテックエンジニアードマテリアルズ社との高性能炭素繊維複合材料の開発・供給に関する戦略的業務協力を合意しました。さらに、自動車用途において炭素繊維複合材料を本格展開することを目的として、独国SGL社との業務提携を更に強化し、プレカーサー製造の合弁会社設立に向けた協議を進めています。

アセテート、機能膜事業その他

アセテート繊維他事業において、三菱レイヨン・テキスタイル(株)は、主力製品のトリアセテート長繊維「ソアロン」が国内、海外ともに衣料消費不振の影響が続き、各素材で生産調整を強化しましたが、収益は低迷を続けました。

機能膜事業については、家庭用浄水器は、店頭市場での需要回復の兆しが見えず、住宅設備市場の不振が続くなど、低調に推移しました。機能膜製品は、急速に市場拡大する中国や韓国をはじめとして、アジアでの下排水処理物件の受注に努めましたが、国内の公共投資削減等の影響が続き、全般に低迷しました。

エンジニアリング事業については、受注は回復傾向にあるものの、設備投資の減少が続く厳しい環境の中で、苦戦を強いられました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産及び負債について、昨年5月に買収手続きが完了したルーサイト社の財政状態を第1四半期連結会計期間から連結貸借対照表に含めたことにより、大幅な増加となりました。

総資産は、前連結会計年度末と比べて1,608億円増加し、5,697億34百万円となりました。そのうち流動資産については、現金及び預金が減少した一方で、受取手形及び売掛金が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比べ206億70百万円増の1,884億7百万円となりました。また固定資産については、機械装置及び運搬具や、ルーサイト社買収に伴いのれんが増加したことなどにより、前連結会計年度末と比べ1,401億29百万円増の3,813億26百万円となりました。

負債は、前連結会計年度末と比べて1,653億8百万円増加し、4,132億46百万円となりました。そのうち流動負債については、短期借入金が増加した一方で、支払手形及び買掛金の増加や、1年内償還予定の社債への振替などにより、前連結会計年度末と比べ143億93百万円増の1,498億85百万円となりました。また固定負債は、社債が減少した一方で、長期借入金や、退職給付引当金が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比べ1,509億15百万円増の2,633億60百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末と比べて45億7百万円減少し、1,564億87百万円となりました。これは、市場の変化に伴う評価・換算差額等の変動及び少数株主持分が増加した一方で、利益剰余金が減少したことなどによります。

(2) キャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べて168億40百万円減の286億50百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失の計上119億3百万円及び売上債権の増加83億32百万円等による支出に対して、減価償却費の計上216億75百万円、為替差損の計上69億38百万円、たな卸資産の減少46億96百万円及び仕入債務の増加197億49百万円等による収入により、前第3四半期連結累計期間と比べ189億63百万円収入増の419億54百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入111億89百万円に対して、有形固定資産の取得による支出311億86百万円及び企業の買収に伴う子会社借入金の返済による支出1,531億87百万円等があり、前第3四半期連結累計期間と比べ1,462億40百万円支出増の1,715億82百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減額272億53百万円等の支出に対して、長期借入れによる収入1,427億85百万円及び企業の買収に伴うデリバティブ取引による収入50億91百万円等があり、前第3四半期連結累計期間と比べ1,051億67百万円収入増の1,138億14百万円の収入となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期通期の事業環境は、需要の回復基調が続くものの、中国をはじめとしたアジア諸国での経済対策の効果が薄れることによる景気の失速懸念も依然としてあります。さらに、原燃料価格の上昇基調や為替相場の不安定な動きなど、先行き不透明な状況が続くものと予想しています。また、構造改革に伴う特別損失の発生や税負担率の変動等の影響により、業績予想の修正を行っています。

通期の業績予想については、売上高、営業利益及び経常利益は前回予想と変わらず、それぞれ3,700億円、46億円、70億円の経常損失、当期純利益は25億円減益の110億円の純損失を予想しています。

なお、平成22年3月期の連結業績予想においては、退職給付会計における数理計算上の差異償却額として通期約49億円を営業費用に含めて算定しています。

数理計算上の差異償却額を除いた平成22年3月期の連結業績予想は次のとおりです。

(%表示は対前期(※)増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | |
|-----|---------|-----|-------|---|--------|---|--------|---|----------------|----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 | 銭 |
| 通 期 | 370,000 | 7.2 | 9,500 | — | △2,100 | — | △8,100 | — | △14 | 16 |

(注)※対前期は、数理計算上の差異償却額を除いた実質ベースにて増減率を算出しています。

